

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2774600429		
法人名	医療法人 養心会		
事業所名	グループホーム 第2ひだまりの家		
所在地	柏原市旭ヶ丘4丁目8-3		
自己評価作成日	平成 22年 3月 25日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員のペースではなく、入居者のペースで生活をしてもらう様に心掛けている。 認知症入居者のありのままの状態を受け入れて、職員が入居者に合わすようにしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774600429&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人養心会が運営する「輝くみどり やさしい陽さし みんな微笑んでいる」をキャッチフレーズとした、開設後9年の3ユニットのグループホームです。平屋建てのホームは、山々に囲まれた緑豊かな環境で、各ユニットは渡り廊下でつながっています。中庭に物干し場があり、梅や山桃の木が植えられ、自由に外気浴ができます。利用者はユニット間を自由に行き来し、調理・掃除・洗濯などの役割を持ち、のびのびと暮らしています。職員も「ゆっくりと時間が流れ、仕事が楽しい」と話し、日々の生活を利用者と共に楽しんでいる様子が伝わります。花見や外食、買い物など利用者の希望を聞きながら、利用者のペースに合わせた取り組みをしています。同法人内にある病院や訪問看護の支援体制が整っており、重度化・終末期についても家族や利用者の意見を尊重しながら取り組んでいます。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットに掲示し、各自携帯している。 名札の裏にも入れている。	「認知症の状態にあってもひとりの人としてその人格を認め、その意思を尊重して、地域社会の繋がりを大切に、個々に有する能力に応じて自立した日常生活を支援する」を理念として掲げています。理念は、ホーム内に掲示するとともに、名札の裏にも書かれ、常に携帯しています。「住み慣れた住まいで過ごしたい」との思いを大切にケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、青年団との交流や、地域の中学生とも交流している。	自治会、青年団との交流、地域の小中学校との交流などに積極的に参加しています。町内行事のたんじり祭りや夏まつりでは河内音頭など、利用者のなじみの風習に触れる機会を大切にしています。地域の美容院や回転ずしなどの外食にも定期的に出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	町内会のダンジリや老人会が管理している花壇を見に行ったり、青年団によるレクリエーションなどの参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進委員会にも家族に参加して頂き、思いなどの意見はケアに生かすようにしている。	運営推進会議の規程を定め、2カ月に1回開催しています。参加メンバーは利用者・家族・地域包括支援センター職員・市職員・地域からも参加して行われています。会議では、具体的なケアの内容からホームの運営についての報告が行われ、家族や地域とともにより良いケアに向けて話し合いが行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とも話をする機会はある。	設立して9年間、日頃から市と連携を図りながら運営しています。市内のグループホームの交流についても、市へ働きかけを行い、市を巻き込みながら質の向上を目指して取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識の徹底に努める。	日中、各ユニットの玄関は電子ロックを解除し、手動で開閉が可能となっています。別棟になっているユニットも自由に行き来できます。利用者も他のユニットでおやつを食べることもあり、職員間で連携を取りながら自由な暮らしを支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意識の徹底に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者もいる。 また、身内のいない人に対し制度の利用を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し交付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時には話をする様にしている。 ボックスを設けて、意見があれば入れて頂くようにしている。	玄関・エレベーター前の意見箱の設置、家族・利用者の運営推進会議への参加、訪問時には職員から声かけを行い、意見や要望を聞くようにしています。意見や要望は会議で話し合い、運営に反映できる体制を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなども、ただ申し送りをするだけでなく、いろんな話をするようにしている。	管理者は、毎月の会議や日々の申し送りの場面で、職員の声に耳を傾けています。入居についてもどこのユニットに入居するのが良いのかなど、計画作成担当者の意見を聞いた上で、相談して決めています。職員から「尿失禁の少ない利用者は昼間布パンツにして、夜間はオムツにしては」との提案があり、取り入れて成功しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例会にも参加し、就業についての話の場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の定例会や、日々の申し送りなども利用し勉強会をしている。 外部研修も随時参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員との交流はあるが少ない為、頻度を増やしたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接にも本人とは必ず話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面接や面会時にも必ず家族とは話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時はもちろん入居されてからも随時話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者との間に壁が出来ないように、まず親しみやすい呼ばれ名（呼び名）を利用している。 在宅時、友人などから呼ばれてたニックネームなどを利用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が話しかけやすい対応に心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や以前住んでいたグループホームの利用者の方も来られる。	以前入居していたグループホームの友人や孫、親戚の方が来訪するなど関係が継続しています。電話の取り次ぎや手紙の援助、以前から利用していた美容院へ通い続けるなどの支援をしています。入居後も利用者と家族の関係を継続するために、月々の支払いを振込にせず、直接支払いをしていただくようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい入居者同士がお互いの部屋に入り話をしたり、将棋をしたりされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに対象者はないが、今後あれば対応する体制でいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的にはスリッパは使用しないが、本人にとって必要なら使用して頂いている。	利用者・家族の意見は、書面に記録しています。日々の関わりからも一人ひとりがどのような暮らしをしたいか、どのように暮らしたいのかを把握しています。しかし、入居後把握した利用者の情報が、記録として残されていません。	入居後も家族や利用者から情報収集しており、ケアに結び付けていますが、記録が入居時のままになっている利用者もいます。得た情報は都度、記録に残すことが求められます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者が得意とする家事などに参加して頂いたり、以前の生活歴に合わせた対応をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリングも行い、職員間で情報を密にしている。</p> <p>また、家族にも話をしている。</p>	<p>家族や利用者から情報を得て「分かること・分からないこと」のシートを活用し、介護計画を作成しています。毎月ケース会議で利用者の様子や一人ひとりの思い、状態を話し合い、職員間で情報を共有しています。3カ月に1回または、必要に応じて見直しを行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族や職員の意見を随時取り入れ、色々な事を試すようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>青年団など町内会の方が来て、レクリエーション等もしている。</p> <p>消防署からも救命講習などに来て頂いている。(6月予定)</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院とも連携は取れており、また主治医とも随時連絡し、対応出来る様になっている。	入居時に、利用者・家族と話し合い、希望する病院で受診できるようにしています。協力病院からは、週に2回内科・精神科の往診があります。また、週に1回の歯科医の往診もあります。夜間や緊急時にはすぐに対応できるよう医療機関との連携があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリー等も利用し情報交換をしている。 近くの病院の場合出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>対象者については、家族、主治医などとも話し合いを行い、対応についても検討している。</p>	<p>利用者家族の意思を前提として、重度化・終末期に向けての支援に取り組んでいます。指針を作成し、入居時に説明しています。状態の変化に合わせて、主治医や看護師からの説明と協力を得てチームでケアに取り組んでいます。看取りについての家族アンケートも実施し、利用者や家族がどのような支援を望んでいるかの把握に努めています。家族が宿泊することもできます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>随時話している。 訪問看護師や、主治医とも相談している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練は6月予定 缶詰など非常食も保管している。</p>	<p>消防署の指導のもと、長期防災計画を立て、年2回の災害時訓練を実施しています。AED（自動体外式除細動器）・救急法の講習会を実施し、喫煙場所の火の管理についても会議で話し合いをしています。運営推進会議でも防災についての報告を行い、地域の避難場所の確認をしています。スプリンクラー設置工事をする予定です。水、食料の備蓄もされています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徹底している。 職員にも指導している。	個人情報保護規程を作成しています。 方針の一つに「介護の押し付けはやめて」を掲げており、一人ひとりの自己決定を促す働きかけをしています。排泄場面でも、他の利用者にオムツやパッドなどが見えないようにし、誘導の声かけも他の利用者に聞こえないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のペースで入居者が決定出来るように支援している。 職員にも指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徹底している。 職員にも指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容も利用でき、家族と理容室に行かれる方もいる。 化粧なども使用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態にもよるが、出来るだけ入居者と一緒に家事作業を行うようにしている。	週2回は各ユニットで食事づくりをしています。他の日は厨房で調理された食事が配食されていますがメニューの希望があれば職員が厨房に伝えます。ご飯は各ユニットで炊き、盛り付けや配膳、片付け等に利用者が参加しています。各ユニットの対面式キッチンからは、調理をする音や匂いで利用者の五感を刺激しています。また、同じ食材でもユニットごとに利用者の好みに合わせて「胡麻和え」「お浸し」など献立を変更しています。機能が落ちても包丁を持つ、おいしく食べるためには魚を焼くタイミングを工夫する等、「食事は楽しく一緒に食べる」方針に沿って支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけて把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを実施し、また週一回訪問歯科による受診もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	Pトイレや誘導を実施しているが無理をせず本人の加齢による能力に応じ対応している。	方針のひとつに「オムツをしない排泄・自己管理の支援」を掲げています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前誘導をしています。また、無理をすることで排泄の失敗をして、はずかしい思いをさせないように、能力に応じて、ポータブルトイレを使用するなどの排泄支援を心がけています。誘導等必要のない利用者についても、一日一回は下着の交換を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを利用したり、また主治医と相談にうえ、下剤を利用することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調にもよるが、午前中に入りたい人などは入ったりしている。	週2～3回の入浴を支援しています。毎日入浴を希望する利用者への対応や、一人ひとりの入浴習慣に応じてゆっくり入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで生活してもらうように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬表を付けたり、医療カルテも随時見える場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活作業の中で役割を見つけてもらい、楽しみを見付けてもらうよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に散歩や外出（買い物）などに出かけている。 寿司が食べたい人へは外食なども実施している。	近隣は、山々に囲まれた緑豊かな静寂な環境で、敷地は広く日常的に外気に触れることができます。ゆるやかな傾斜面に建てられたホーム周囲は坂道が多く、車いすの利用者や一部の重度化した利用者にとっては日常的に外出できるのは難しい環境です。そのような環境のなかで、買い物や花見、外食などの取り組みを行っています。	今後は、認知・身体機能レベルでの重度化に伴い、利用者一人ひとりの希望に応じた外出への取り組みが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ家族や後見人が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば電話の利用もされている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンなどを利用し、また入居者自ら開け閉めをされている。	エレベーター前には椅子とテーブルが置かれ、広いガラス窓から山々の新緑を眺め四季を感じることができます。対面式のキッチンには、食事作りをしながら会話を交わすことができます。テレビやソファが置かれたリビング、玄関ホールなど思い思いに過ごすスペースが確保されています。また、敷地が広く、なだらかな丘陵地の各ユニットの棟の間には中庭があり、ヤマモモ・梅・柑橘類などの木々が植えられ、外気に触れるスペースが確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルームや廊下にベンチなどを置いている。「ゴザ」を敷いているので寝転んだりしてテレビを見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していたものを持ってきていただいている。自らの創作物を自らの手で飾られている。	机・椅子・タンス・ベッド・仏壇など居室への持ち込みは利用者・家族の自由な選択となっています。好きな電車や歌手の写真、ぬいぐるみ・時計など利用者の趣味に合わせて居室内を飾り付けしています。また、居室の入口には各自異なった暖簾を吊るしています。暖簾は利用者自身が作成したものもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差によっては目立つようにしている。		